

2025 年春季大会 領域 9 インフォーマルミーティング議題 配布資料

開催日時 2025年3月19日18時00分～
於 オンライン (Zoom Linkは学会HP参照)

領域代表 高木 紀明 (2024.4-2025.3)
領域副代表 佐藤 正英 (2024.4-2025.3) 領域代表 (2025.4-2026.3)
領域運営委員 安井 勇気、櫻井 敦教、岡田 有史 (2024.4-2025.3)
萩原 聡、小野田 穰、中室 貴幸 (2024.10-2025.9)

IFM参加者 37名

議題

1. 報告

- (1) 学生優秀発表賞受賞者(+写真撮影)
- (2) 今大会のプログラム編成
- (3) 2025 年春季大会までの登録件数の推移
- (4) **TPS-JPS ジョイントシンポジウムについて**
- (5) 第 80 回年次大会 (2025 年 9 月 16 日～19 日)までのスケジュール
- (6) 学生優秀発表賞への申し込みについて

2. 協議事項

- (1) 次々期領域運営委員の選出・承認
- (2) 次大会 (第 80 回年次大会(2025))におけるシンポジウム・招待講演
- (3) キーワード・合同セッションについて(+承認事項)
- (4) 領域会議からの議題

【報告】

(1) 学生優秀発表賞受賞者の発表

領域 9 における学生優秀発表賞の授賞式が、萩原委員より行われた(審査対象学生 11 名, 審査委員 12 名, 1 件につき 4 名で審査). 受賞者・講演題目は以下の通り(敬称略).

- ・安村 洋輝(京都大学理学研究科, M2)『銅表面上におけるフォルメートの吸着状態の面方位依存性』
- ・岡崎 淳哉(東京大学物性研究所, M2)『Si(111)上の高密度 Pb 単原子層薄膜における構造および電気伝導のナノスケール評価』

佐藤領域副代表から授賞理由に関して説明があった.

(2) 今大会のプログラム編成

発表件数 前回学会との比較
(2024 秋(北大)/2024 春(オンライン))

一般総数 :	57 件	(-65 / -29)
一般口頭発表 :	36 件	(-37 / -23)
ポスター発表 :	21 件	(-28 / -6)

合同セッション(2 件)

- 領域 9(構造物性) 発表件数 1 件 (領域 3 と合同、20 日午前)
- 領域 5(磁性) 発表件数 7 件 (領域 1, 3, 4, 8, 9 と合同、19 日午後)

シンポジウム・合同シンポジウム(領域 9 主催 1 件 + 他領域主催 3 件 = 合計 4 件)

「先端的光計測で切り開くマイクロとマクロの表面・界面研究」(**領域 9 主催**、領域 4, 5, 10 と合同、19 日午後)

「非平衡・非局所・非線形：無限に広がる光物性の世界」(領域 5 主催、領域 1, 2, 4, 9, 12 と合同、18 日午後)

「先端ナノ物質と光デバイス応用の新展開」(領域 5 主催、領域 3, 4, 7, 9, 10 と合同、20 日午後)

「ナノマテリアルの構造進化とデバイス展開」(領域 7 主催、領域 3, 4, 9, 10 と合同、21 日午後)

招待講演・企画講演(領域 9 主催 3 件 + 他領域主催 3 件 = 合計 6 件)

東脇 正高(大阪公立大) (領域 9 主催、領域 4 と合同、18 日午前)

「酸化ガリウム薄膜エピタキシャル成長技術の進展」

吉田 昭二(筑波大) (領域 9 主催、領域 5,10 と合同、19 日午後)

「時間分解走査プローブ顕微鏡の開発と応用」

山田 豊和(千葉大) (領域 9 主催、領域 3,7 と合同、20 日午前)

「分子-金属相互作用を利用した低次元ナノ構造の表面合成」

岩切 秀一(ワイツマン科学研究所) (領域 7 主催、領域 4, 8, 9 と合同、18 日午前)

「モアレ物質のメゾスコピック物理と量子ねじれ顕微鏡」

Marcel Reutzel (Georg-August-Universität Göttingen) (領域 5 主催、領域 1, 9, 10 と合同、18 日午後)

“Excitons in space and time - a femtosecond momentum microscopy study”

Turnbull Luke (Maxplank Institute for Chemical Physics of Solids) (領域 5 主催、領域 1, 3, 4, 8, 9 と合同、19 日午後)

“Three-Dimensional Topological Spin Textures in Nanopatterned Chiral Magnets”

英語セッション希望申し込み 8 件(うちポスター講演 3 件)

学生優秀発表賞申し込み 13 件

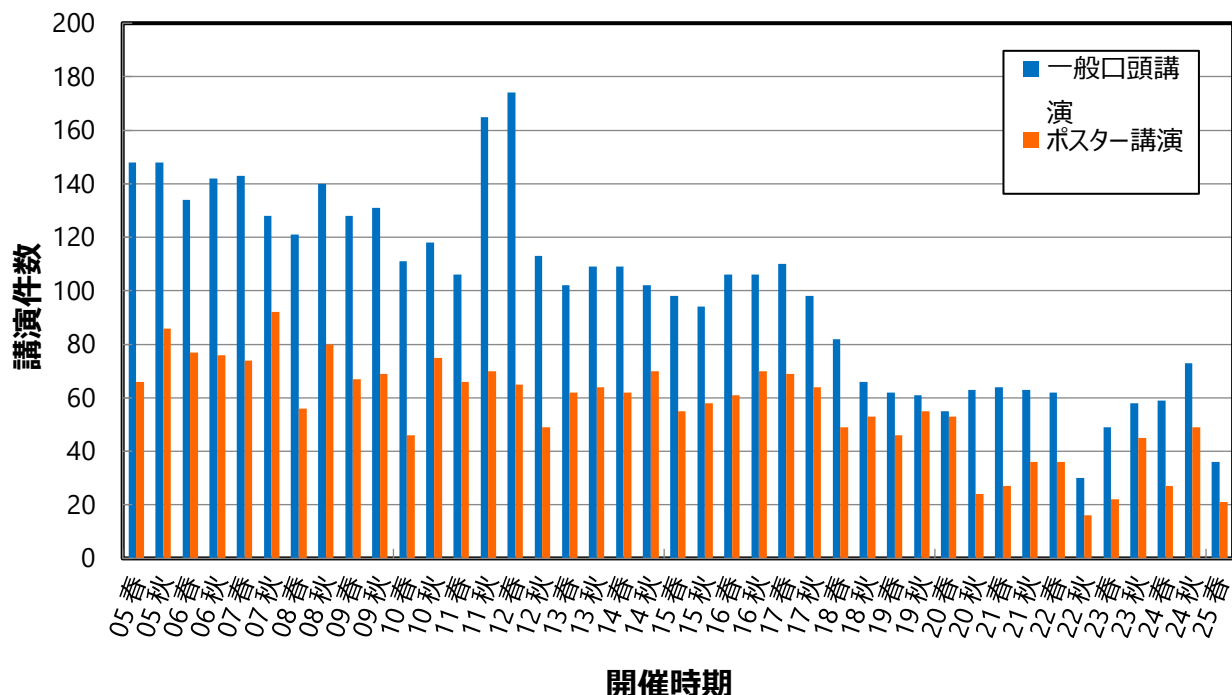
	2025/3/18 (火)		2025/3/19(水)		2025/3/20(木)	2025/3/21(金)
	会場(J1)	会場(PSJ)	会場(J1)	会場(E1)	会場(J1)	
	9:00～12:45		9:00～11:30		9:30～12:15	
午前	結晶成長 (13 件、うち招待講演 1 件は領域 4 と合同)		電子物性・トポロジカル物性 (10 件)		構造物性・表面界面磁性・若手奨励賞受賞講演 (7 件、うち 1 件は領域 3 と合同、招待講演 1 件は領域 3,7 と合同、2 件は若手奨励賞の報告と受賞講演)	
		16:00～18:00	13:30～17:30	14:00～16:00	13:30～16:15	
午後		領域 9 ポスターセッション (21 件)	先端的計測シンポジウム講演 6 件は領域 4,5,10 と合同、招待講演 1 件は領域 5,10 と合同)	【領域 5】磁性 (7 件、うち招待講演 1 件は領域 1,3,4,5,8 と合同)	表面物理化学・ダイナミクス (10 件)	
			18:00～20:00			
			インフォーマルミーティング			

概要提出率(講演件数は申し込み時)

講演件数	概要提出数	概要提出率
69	67	97.1%

(3) 2025 年春季大会までの登録件数の推移

一般講演件数の変遷



長谷川先生から、オンライン開催には長所と短所があり、現段階では学会としての意向を十分に集約できていないとのご説明があった。

今後 3 年間の春季大会はオンラインで開催される見込みですが、オンライン発表の場合は土日や祝日を避けて開催する可能性があるとのことであった。

(4) TPS-JPS ジョイントシンポジウムについて

荒船先生より、2025.1.14-15 の期間で TPS-JPS Joint Symposium in TPS Meeting 2025 が開催された旨ご報告があった。秋学会と同様に、二つのシンポジウム(SPM studies on emergent materials, Spectral Analysis of Solid Materials Using Advanced Light Sources)が台湾で開催された。オンサイトでの国際交流は極めて重要であり、継続的に開催することが望ましいとのことであった。

長谷川先生より、理事会においても国際交流の重要性を意識し、今後は国際シンポジウムを積極的に奨励していく方針である旨のご連絡があった。

(5) 次大会 (第 80 回年次大会(2025)) までのスケジュール

開催地: 広島大学 東広島キャンパス

開催期間: 2025 年 9 月 16 日(火) ~ 19 日(金)

参考 URL: <http://www.div.jps.or.jp/schedule2025A.html>

1. 企画提案(シンポジウム等)、公募・提案方法の案内
2. 一般講演 募集要項掲載
3. シンポジウム、招待・企画講演等 企画提案(web 受付)

会誌 2025 年 4 月号掲載

会誌 2025 年 5 月号掲載

4 月 30 日(水)~5 月 20 日(火)

(※領域委員修正は 5 月 25 日(日)まで)

- | | |
|--|-----------------------------------|
| 4. 一般講演 登壇申込期間 | 6 月 10 日(火)～
7 月 3 日(木) 14 時締切 |
| 5. インフォーマルミーティング申請期間 | 6 月 10 日(火)～7 月 15 日(火) |
| 6. 領域委員会 素核宇ビーム・物性プログラム小委員会
(領域代表に出席していただきます) | 5 月末～6 月上旬予定
※Zoom 開催 |
| 7. プログラム編集説明会
(領域運営委員の方に出席していただきます。) | 7 月中旬
※Zoom 開催 |
| 8. WEB 版プログラム(暫定版)公開 | 7 月 30 日(水)
※日程は前後する可能性あり |
| 9. 座長依頼の連絡 | 8 月 1 日(金)
※日程は前後する可能性あり |
| 10. 講演概要集原稿(PDF)締切 | 8 月 12 日(火) 14 時締切 |
| 11. PDF 版プログラム初校校正 | 8 月 22 日(金)～8 月 27 日(水) |
| 12. PDF 版プログラム 公開 | 9 月 5 日(金) (会員マイページ内) |
| 13. 講演概要集(WEB 版) 公開 | 9 月 8 日(金) |

*計算物理領域の試行(3年間)が、次大会より始まる(年次大会のみ講演を募集、学生優秀発表賞・若手奨励賞の表彰は行わない)。

(6) 学生優秀発表賞(ポスター発表のみを対象とする)への申し込みについて

学生優秀発表賞への応募が 13 件あったが、うち 2 件は誤って口頭発表での申し込みであった。後日これらの学生に連絡を取り確認したところ、2 件とも口頭発表を選択したので、**学生優秀発表賞**の応募総数は 11 件であった。

日本物理学会の方針としては、口頭およびポスター発表ともに学生優秀発表賞の申し込みを認めている(<https://www.jps.or.jp/activities/docs/gakusei-yoko.pdf>)。領域 9 では、ポスターのみを対象としているが、詳細な経緯について把握されている方はおられない。今後は、他学会や国際的な情勢を見据えながら、また審査側の負担を考慮した上で、口頭発表も対象に含めることの拡大や、コンペティションセッションを設けることによって、学生のためになる仕組みを構築することについて継続的に議論することとなった。

【協議事項】

(1) 次々期領域運営委員候補者の推薦・承認(敬称略)

表面・界面分科

長谷川 友里 (筑波大学)
中嶋 武 (東京科学大)

結晶成長分科

山崎 智也 (北海道大学)

小野田委員、萩原委員、中室委員から上記候補者が紹介され、賛成多数で承認された。
承認された中嶋先生から挨拶が行われた。

(2) 第 80 回年次大会(2025)におけるシンポジウム・招待講演(敬称略)

(シンポジウム(表面・界面計測, データサイエンス))

提案者: 小野田 穰、萩原 聡、中室 貴幸

主題:「データサイエンスで切り拓く表面・界面研究の最前線(仮)」(領域 10 との合同開催希望)

説明: 近年、データサイエンスの分野は急速に発展し、表面・界面研究にも大きな影響を与えている。X 線光電子分光やラマン分光などの各種分光法は表面・界面の元素の化学状態を知る上で不可欠であるが、スペクトル解析には実験者の経験に頼るところが大きい。そこで、機械学習を活用した高速自動ピークフィッティングや超解像画像処理など、データ駆動型解析技術の開発が進められている[1, 2]。また、走査プローブ顕微鏡の分野においてもトポグラフ解析においてベイズ統計的手法を用いたテラス分類やバックグラウンド除去、高さ推定が試みられている[3]。一方、計算物質科学分野では、第一原理計算を再現する機械学習モデルを訓練することにより、金属や酸化物合金などの多成分固体系を扱うための統計熱力学サンプリングの高速化が

なされており、固固界面や固液界面への応用されている[4]。さらに、高精度第一原理計算と機械学習モデルを組み合わせることで、結晶粒界の界面構造およびエネルギーおよび実験と比較可能な酸化物界面におけるバンドアラインメントの系統的な予測が行われている[5]。また、無機材料合成のラボオートメーションの開発[6]、透過電子顕微鏡による 5 次元データ解析[7]なども進められている。本シンポジウムでは、このようにデータサイエンスを表面・界面研究に活用された講演者をお招きし、最近の研究成果についてご講演いただくとともに、今後の表面・界面のデータサイエンスについて展望する。

- [1] T. Matsumura, **N. Nagamura**, S. Akaho, K. Nagata, and Y. Ando, *Sci. Technol. Adv. Mater.* **20**, 733 (2019).
- [2] M. Okada, **N. Nagamura**, T. Matsumura, Y. Ando, A. K. A. Lu, N. Okada, W.-H. Chang, T. Nakanishi, T. Shimizu, T. Kubo, T. Irisawa, and T. Yamada, *APL Mater.* **9**, 121115 (2021).
- [3] **Y. Kohsaka**, *Rev. Sci. Instrum.* **92**, 033702 (2021).
- [4] **S. Kasamatsu**, Y. Motoyama, K. Yoshimi and T. Aoyama, *Sci. Technol. Adv. Mater. Meth.* **3**, 2 (2023).; A. Nakanishi, **S. Kasamatsu**, J. Haruyama, and O. Sugino, *J. Phys. Chem. C* **129**, 2403 (2025).
- [5] **S. Kiyohara**, H. Oda, T. Miyata, and T. Mizoguchi, *Sci. Adv.* **2**, e1600746 (2016).; **S. Kiyohara**, Y. Hinuma, and F. Oba, *J. Am. Chem. Soc.* **146**, 9697 (2024).
- [6] **R. Shimizu**, S. Kobayashi, Y. Watanabe, Y. Ando, and T. Hitosugi, *APL Mater.* **8**, 111110 (2020).
- [7] **Y. Nomura**, K. Yamamoto, N. Kuwata, and T. Hirayama, *ACS Energy Lett.* **10**, 1404 (2025); **Y. Nomura**, and K. Yamamoto, *Adv. Energy Mater.* **13**, 2203883 (2023).

登壇者一覧と講演題目（仮）：

1. 企画説明
2. 永村 直佳(NIMS)「機械学習データ解析による多次元顕微分光計測の超効率化」
3. 幸坂 祐生(京大)「ベイズ推定を用いた STM データ解析 -- テラス分類・バックグラウンド除去・高さ推定」
4. 笠松 秀輔(山形大)「機械学習ポテンシャルを用いた電気化学固液・固固界面の解析」
5. 清原 慎(東北大)「表面を含む格子欠陥材料における機械学習を用いた材料探索手法の開発」
6. 清水亮太(東大)「無機材料合成のラボオートメーションにおける課題と展望」
7. 野村優貴(JFCC)「透過電子顕微鏡法と 5 次元データ解析による Li イオン電池内部の Li 拡散の可視化」

企画説明 5 分、講演各 30 分、途中休憩 15 分 計 3 時間 20 分

小野田委員よりシンポジウムの概要および各講演者の講演内容について説明があり、賛成多数で承認された。日本語講演を予定している。また以下のような意見があった。

1. 講演者については、非物理学会員であっても問題ない(数の上限については、過去の IFM 資料を参照すること)。
2. 提案書には論文情報の記載が必須である。特段の規定はないが、できる限り新しい論文を含めることが望ましいとされている。

(招待講演(表面界面))

提案者:萩原 聡

講師:望月 出海(高エネルギー加速器研究機構)

主題:「全反射高速陽電子回折(TRHEPD)による最表面原子に高感度な表面構造解析（仮）」

説明:全反射高速陽電子回折(TRHEPD)は、電子の反粒子である陽電子をプローブとした表面構造解析法であり、表面にすれすれ入射した陽電子が臨界角以下で全反射する特徴を利用して、最表面に非常に敏感かつ精緻な構造解析を実現している。望月氏はこれまでに、TRHEPD を用いて、三十年来議論されてきたルチル型 $\text{TiO}_2(110)-(1 \times 2)$ 表面構造[1]、表面超伝導状態を示す $\text{SiC}(0001)$ 基板上の Ca 挿入した二層 graphene における原子配列[2]や水素終端した $\text{SiC}(0001)$ 表面上に実現される準 freestanding な単層 graphene の構造[3]など様々な表面構造の未解決問題を解決しており、近年では水素の表面吸着構造の決定に成功している。今回は、TRHEPD により決定された様々な表面構造および最新の成果を TRHEPD の特徴とともにご講演いただく。

- [1] **I. Mochizuki**, H. Ariga, Y. Fukaya, K. Wada, M. Maekawa, A. Kawasuso, T. Shidara, K. Asakura and T. Hyodo, *Phys. Chem. Chem. Phys.* **18**, 7085 (2016).
- [2] Y. Endo, Y. Fukaya, **I. Mochizuki**, A. Takayama, T. Hyodo, and S. Hasegawa, *Carbon* **157**, 857 (2020).

[3] M. Doderhöft, **I. Mochizuki**, K. Wada, T. Hyodo, P. Richter, P. Schädlich, T. Seyller, and C. Hugenschmidt, *Phys. Rev. B* **108**, 155438 (2023).

萩原委員より招待講演の概要および各講演者の講演内容について説明があり，賛成多数で承認された。

(招待講演(表面界面))

提案者:小野田 穰

講師:吉田 靖雄(金沢大学)

主題:「鉄系超伝導体 $\text{FeSe}_x\text{Te}_{1-x}$ における表面のシワとネマティシティによる超伝導特性の空間

変調構造 (仮)」

説明:吉田氏は、スピン偏極 STM を用いて磁性薄膜[1]や Ag 表面に物理吸着した酸素分子の磁性[2]を解明しており、特に最近では、磁性が触媒活性に関わる窒素ドーパカーボン触媒の活性メカニズム[3]を詳細に調べている。また、吉田氏は超高真空・極低温・強磁場 STM 装置の開発を進めており、これまでに重い電子系超伝導体表面での軌道秩序[4]や二次元超伝導体[5]についても報告している。当日は、最近のご研究から、バルク計測と STM を組み合わせた鉄系超伝導体の表面において、二次元物質特有の表面のシワによるネマティシティの変調が超伝導に与える影響に関する研究成果[6]をご講演いただく。

[1] M. Haze, **Y. Yoshida** et al., *Phys. Rev. B* **95**, 060415(R) (2017).

[2] D. Serrate, **Y. Yoshida** et al., *Phys. Rev. B* **93**, 125424 (2016).

[3] G. Chen, Y. Yoshida(4th author), et al., *Angew. Chem. Int. Ed.* **63**, e202410747 (2024).

[4] H. Kim, Y. Yoshida(責任著者) et al., *Sci. Adv.* **3**, eaao0362 (2017); 吉田靖雄 他 固体物理 No.10 (通巻 644 号), Vol.54 (2019).

[5] T. Shimokawa Y. Yoshida (last author, 責任著者) et al., arXiv:2410.01247

[6] Y. Yoshida et al., in preparation.

小野田委員より招待講演の概要および各講演者の講演内容について説明があり，賛成多数で承認された。また以下のような意見があった。

1. 説明を見る限り，強相関電子系に限定しているものではないので，主題を再検討する必要があるのではないかな。
2. 説明の前半は，古い論文が引用されており，最近の論文にフォーカスをおいた提案書とした方がよいのではないかな。

(招待講演(結晶成長))

提案者: 中室 貴幸

講師: 山本 洋平(筑波大学)

主題: 「精密に構造制御されたマイクロスケルタル結晶やキラルマイクロ球体の形成(仮)」

説明: 結晶には、稜や頂点が突出した凹多面体形状を特徴とする「骸晶」と呼ばれる一群が存在する。この骸晶特有の外形は、溶質分子が結晶表面で即座に結晶格子へ取り込まれる、速度論的に支配された拡散律速成長によって形成される。しかしながら、主に熱平衡下での結晶成長制御を前提とする結晶工学においては、速度論的に形成される骸晶の形状やサイズ、配向性を精密に制御することは依然として困難である。山本氏は、自己組織化を巧みに制御することで課題解決し、キラルなお椀状マイクロ単結晶の一斉成長を実現した[1]。今回は、ナノ・マイクロ構造体の合成について、最新の成果をご講演いただく[2, 3, 4]。

[1] O. Oki, H. Yamagishi, H. Y. Morisaki, R. Inoue, K. Ogawa, N. Miki, Y. Norikane, H. Sato, **Y. Yamamoto**, *Science* **377**, 673 (2022).

[2] O. Oki, C. Kulkarni, H. Yamagishi, S. C. J. Meskers, Z.-H. Lin, J.-S. Huang, E. W. Meijer, **Y. Yamamoto**, *J. Am. Chem. Res.* **143**, 8772 (2021).

[3] **Y. Yamamoto**, Y. H. Yamagishi, J.-S. Huang, A. Lorke, *Acc. Chem. Res.* **56**, 1469 (2023).

[4] O. Oki, S. Noguchi, S. Nakayama, H. Yamagishi, J. Kuwabara, T. Kanbara, **Y. Yamamoto**, *Small* **21**, 2404934 (2024).

中室委員より招待講演の概要および各講演者の講演内容について説明があり、賛成多数で承認された。

佐藤副代表より、招待講演の数について領域内でのコンセンサス形成についての確認があった。招待講演が 3 件であれば、これまでも開催実績もあるので問題ないということになった。

(3) キーワード・合同セッションについて

2025 年 春季大会に予定しているキーワード

第一キーワード (研究分野)

- (1) 結晶成長
- (2) 電子物性
- (3) 構造物性
- (4) ナノ量子物性
- (5) 表面物理化学
- (6) ダイナミクス
- (7) 表面界面磁性
- (8) 原子層物質科学
- (9) トポロジカル物性
- (10) トライボロジー
- (11) インフォマティクス

第二キーワード (手法)

- (21) 走査プローブ顕微鏡法
- (22) 電子顕微鏡法・その他イメージング
- (23) 分光
- (24) 回折・散乱
- (25) トランスポート
- (26) その場観察・時間分解
- (27) 質量分析
- (28) 理論・シミュレーション
- (29) 機械学習
- (30) その他

第三キーワード (研究対象)
(物質・材料)

- (41) グラフェン・二次元層状物質
- (42) トポロジカル物質
- (43) ナノチューブ・ナノワイヤ
- (44) 量子ドット・ナノクラスター
- (45) ソフトマター・高分子
- (46) 水・氷
- (47) 液体
- (48) 有機材料
- (49) 金属材料
- (50) 半導体材料
- (51) 磁性材料
- (52) 熱電材料
- (53) 触媒材料
- (54) 電池材料
- (55) 水素化物・水素貯蔵材料
- (56) エレクトロニクス材料
- (57) スピントロニクス材料 (機能・現象)
- (71) 単原子・単分子操作
- (72) 吸着・反応・脱離
- (73) 分子振動・フォノン
- (74) 原子・イオン拡散
- (75) 薄膜形成・自己組織化
- (76) 表面再構成
- (77) 相転移
- (78) 核生成
- (79) 溶解・析出
- (80) 成長制御
- (81) 光誘起・光機能
- (82) 活性サイト
- (83) 超伝導
- (84) 量子閉込め・バンド制御
- (85) スピン偏極
- (86) バルクエッジ対応

合同セッションについての現状

・口頭発表で「表面界面磁性」「トポロジカル物性」をキーワードで選んだ場合は領域 3 または 4・8 との合同セッションにすることがある。講演募集要項での記述は以下のとおり。

(注) 口頭発表で、キーワード「表面界面磁性」を選んだ講演に対して、領域 3 との合同セッションを設けることがある。合同セッションを希望する場合には、「合同セッション希望」と記入すること。

(注) 発表者・聴衆の便利のため、関連性が強いと思われる講演を組み合わせる他領域との間で機動的に合同セッションを組むことがあります。

(注) 口頭発表でキーワード (9) トポロジカル物性を選んだ講演に対して、領域 4・8 との合同セッションを設けることがある。

また、募集要項「(別表 2) 合同セッションのある領域」に次の記載がある。

・発表者・聴衆の便利のため、関連性が強いと思われる講演を組み合わせる、領域 7 と領域 9 の間で機動的に合同セッションを組むことがあります。

・今回、領域 3 と開催した合同セッション：

(領域 9 主催)	発表件数 0 件	2025 年春
(領域 9 主催)	発表件数 0 件	2024 年秋
(領域 9 主催)	発表件数 0 件	2024 年春
(領域 3 主催)	発表件数 4 件 (うち領域 9 : 3 件)	2023 年秋
(領域 3 主催)	発表件数 2 件 (うち領域 9 : 1 件)	2023 年春
(領域 3 主催)	発表件数 2 件 (うち領域 9 : 2 件)	2022 年秋
(領域 9 主催)	発表件数 5 件 (うち領域 9 : 3 件)	2022 年春
(領域 3 主催)	発表件数 2 件 (うち領域 9 : 1 件)	2021 年秋
(領域 9 主催)	発表件数 4 件 (うち領域 9 : 3 件)	2021 年春
(領域 3 主催)	発表件数 3 件 (うち領域 9 : 0 件)	2020 年秋
現地開催中止 2020 年春		
(領域 3 主催)	発表件数 3 件 (うち領域 9 : 0 件)	2019 年秋
(領域 9 主催)	発表件数 5 件 (うち領域 9 : 2 件)	2019 年春
(領域 3 主催)	発表件数 5 件 (うち領域 9 : 3 件)	2018 年秋
(領域 9 主催)	発表件数 10 件 (うち領域 9 : 5 件)	2018 年春
(領域 3 主催)	発表件数 15 件 (うち領域 9 : 5 件)	2017 年秋
(領域 9 主催)	発表件数 10 件 (うち領域 9 : 5 件)	2017 年春
(領域 3 主催)	発表件数 13 件 (うち領域 9 : 5 件)	2016 年秋
(領域 9 主催)	発表件数 8 件 (うち領域 9 : 3 件)	2016 年春
(領域 3 主催)	発表件数 8 件 (うち領域 9 : 2 件)	2015 年秋
(領域 9 主催)	発表件数 13 件 (うち領域 9 : 5 件)	2015 年春
(領域 9 主催)	発表件数 7 件 (うち領域 9 : 6 件)	2014 年秋
(領域 3 主催)	発表件数 14 件 (うち領域 9 : 7 件)	2014 年春
(領域 9 主催)	発表件数 13 件 (うち領域 9 : 2 件)	2013 年秋
(領域 3 主催)	発表件数 8 件 (うち領域 9 : 6 件)	2013 年春
(領域 9 主催)	発表件数 12 件 (うち領域 9 : 8 件)	2012 年秋

(参考:2025 年春大会では、領域 9 から一般講演 1 件、招待講演 1 件が予定。)

松井先生より、過去の経緯として、アブストラクトの印刷による分冊の取り扱いや、発表件数が若手の賞の数に影響することなどについて、追加のご説明があった。

高木先生より、本件については適宜対応していくのが良いだろうとのご意見があった。これまでの方向から変更なしで、承認された。

(4) 領域委員会からの議題(領域 9 での意見収集)

1. オンライン大会でのポスターセッションのあり方について

アンケート結果が、資料 5 の Q4. のようになりました。「オンラインに特化した講演方式があると良い」というご意見が多く、「ショートプレゼンテーション(+ブレイクアウトルーム)」や「ショート動画の事前投稿(+コメント欄での質疑)」など、具体的な案もあげられています。2026 年春季大会以降に「ポスター発表に代わる発表形式」の導入を視野に検討することとなりましたのでご意見ください。

これまでの別学会でのポスターセッションで用いられたアプリについて、意見が交わされた。

坂本先生より、Zoom ブレイクアウトルームに一度入ると抜けづらいという事情があり、今回のあり方について提案がなされたと追加の説明があった。

長谷川先生より、各々の課金の問題でもあるが、大会運営員会に方策を提案してほしいという意見があった。

参考:

• Spatial Chat (<https://www.spatial.chat>)

日本分析化学会による使い方 (https://conference.jsac.jp/wp-content/uploads/70nenkai/SpatialChat_0910.pdf)

• Gather town (<https://localsquare.co.jp/gather>)

日本真空学会による使い方 (<https://www.jvss.jp/annual/mtg2021/manual/gathertown.pdf>)

• Remo (<https://jp.remo.co>)

2. Zoom の同時翻訳字幕機能の導入について

2025 年春季大会にて Zoom の同時翻訳字幕機能を試行的に導入することになりました。聴講者側で表示の有無や言語設定が可能です。本機能を使ってみた感想等お知らせください。

高木先生より、使ってみた感想についてはメールにて意見をお送りくださいと連絡があった。

3. 80 周年記念国際シンポジウムに関して

2026 年に日本物理学会が誕生(正確には日本数学物理学会から分かれて再出発)してから 80 年となります。その記念事業として、2026 年 9 月に東京大学(駒場キャンパス)で開催される第 81 回年次大会の前日にあたる 9 月 13 日に、80 周年記念国際シンポジウムを開催するとともに、国内外の研究者によるサテライトセッション(英語によるシンポジウムに相当するもの)を大会期間中に行うことを計画しています。

日本物理学会からの講演者招聘に関する金銭的なサポートについては、期待できないだろうとの追加説明があった。

4. 計算物理領域との合同セッション希望の有無について

各領域の講演数が減らないようにするため、計算物理領域では全ての講演を合同セッション扱いにする予定です。合同セッションのテーマは「高性能計算」「計算アルゴリズム」「データ駆動科学」の 3 つが検討されています。合同セッションの希望について以下から回答するように事務局から依頼が来ています。

1. 3 つすべてのテーマとの合同領域を希望する
2. 「高性能計算」「計算アルゴリズム」の 2 つの合同領域を希望する
3. 「高性能計算」「データ駆動科学」の 2 つの合同領域を希望する
4. 「計算アルゴリズム」「データ駆動科学」の 2 つの合同領域を希望する
5. 「高性能計算」のみ合同領域を希望する
6. 「計算アルゴリズム」のみ合同領域を希望する
7. 「データ駆動科学」のみ合同領域を希望する
8. 計算物理領域との合同領域を希望しない

森川先生より、3 つのセッションは表面科学と関連するテーマであると考えられるので、3 つすべてのテーマとの合同領域を希望できたら良いと意見があった。領域 9 からの意見として、1 の方針であることが協議された。

資料 1. 最近企画されたシンポジウム

2025 年春	
領域 9,4,5,10	先端的計測で切り開くミクロとマクロの表面・界面研究
領域 5,1,2,4,9,12	非平衡・非局所・非線形:無限に広がる光物性の世界
領域 5,3,4,7,9,10	先端ナノ物質と光デバイス応用の新展開
領域 7,3,4,9,10	ナノマテリアルの構造進化とデバイス展開
2024 年秋	
領域 9,3,4,5,12	Probing Emergence of Functionalities at Surfaces
領域 9,3,4,5,7,8	Revealing Novel States at Surface and Interface
領域 2,5,9,10	先端計測のフロンティア～見えないモノを見る挑戦
2024 年春	
領域 5,2,8,9	Frontiers of Condensed Matter Physics with X-ray Free-Electron Lasers
領域 4,3,5,9	トポロジカル材料科学と革新的機能創出
領域 9,5,10	最先端分光手法による表面界面のキャラクタリゼーション
領域 7,4,6,9	物質科学が拓く新原理デバイス
2023 年秋	
領域 9,4,10	ナノ物質材料が拓く世界
領域 5,4,9,11	励起状態と輻射場の非平衡ダイナミクス:「発光」の新知見
2023 年春(オンライン)	
領域 9,5,10	先端量子ビームを用いた表面科学研究の最前線
2022 年秋	
なし	
2022 年春(オンライン)	
領域 9, 5, 11	New frontiers of surface, interface, and nano science toward dissipation phenomena
領域 7,4,6,9	分子性結晶におけるトポロジカル物性の展開
2021 年秋(オンライン)	
領域 9,3,4,5,8	Interdisciplinary surface science researches toward innovative materials and devices
2021 年春(オンライン)	
領域 9, 12	先進的計測・理論による表面界面ナノ研究の新展開
領域 5,3,4,8,9	放射光科学のフロンティア:最新動向と将来展望
領域 10,9,12	ミルフィーユ構造の材料科学
領域 6,4,7,8,9	ハイパーマテリアル
領域 10,3,4,9, 11,12	「革新材料開発」の進展
2020 年秋(オンライン)	
領域 9, 1,7,10,11	ハイドロジェノミクスー変幻自在な水素を活かすサイエンス※
領域 9,5,10,11	界面におけるエネルギー変換と輸送※
領域 7, 4,5,9,10	グラフェン物性科学の新展開 (※2020 年春の現地開催中止に伴う再企画)
2020 年春(現地開催中止)	
領域 9, 1,7,10,11	ハイドロジェノミクスー変幻自在な水素を活かすサイエンス
領域 9,5,10,11	界面におけるエネルギー変換と輸送
領域 9, 3, 4	表面界面の非対称性と非相反機能
2019 年秋	
領域 9, 5	表面・界面プローブで切り開く電池材料の物理
領域 9, 4, 7	表面と原子層を融合した新しい 2 次元物質科学に向けて
2019 年春	
領域 9, 3, 7	有機分子と表面の出会いがもたらす多体相関物性
領域 4, 3, 7, 8, 9	低次元トポロジカル絶縁体・スピン物性の新展開
領域横断	国際周期表年 2019
領域 12, 素粒, 理核物, 宇宙,	
領域 1, 2, 9, 11	計算物理学への誘い
2018 年秋	
領域 9, 5	時間分解プローブを駆使した表面・界面科学及び結晶成長の進展と展望

領域 5, 9, 4, 8 領域横断	光で切り拓く新しいトポロジカル物性科学 60 years of Physical Review Letters
2018 年春	
領域 9	表面・界面における反転対称性の破れとスピン軌道相互作用
領域 4,1,6,8,9	トポロジカル物質科学の新展開
領域 10,9,11	インフォマティクスを活用した材料科学の新展開
2017 年秋	
領域 9, 11	理論による表面・界面・ナノ構造の微視的構造と物性の予測：現状と展望
領域 7, 4, 9	遷移金属カルコゲナイド 2 次元結晶の新展開
2017 年春	
領域 9, 4, 7	新しい単元素二次元層状物質の創製とその物性
領域 4, 7, 8, 10	原子層関連物質における 2 次元超伝導現象
2016 年秋	
領域 9	表面界面ナノ構造のその場観察
領域 9,3,5,7,8,10	材料研究が拓く界面・不均一系の物性科学
領域 5, 8, 9	遷移金属酸化物表面・界面の新しい電子状態とその分光手法による解明
領域 4,3,5,7,8,9	トポロジカル材料開発の新展開
2016 年春	
領域 9, 3	分子性薄膜とその表面/界面の物理
領域 10,1,9, ビーム物理	陽電子で拓く物性物理の最前線
2015 年秋	
領域 9, 3	表面・界面数原子層の磁気物性
領域 9, 5	The stream and prospects of condensed matter physics in subsurface region using novel spectroscopy
2015 年春	
領域 9, 5	表面光励起とダイナミクス
領域 11,3,4,8,9,10	第一原理計算手法の現状と展望
領域 5, 9	先端的時間分解光電子分光法の開発と光機能性界面のリアルタイム観測
領域 11, 3, 9	『京』が拓いた物性物理
領域 10, 9	機能発現サイトの原子スケール立体構造解明 -無機から蛋白まで-
領域 11, 3, 6, 9,10	マテリアルズインフォマティクスの現状と将来
2014 年秋	
領域 9, 3	表面スピンの基礎物性とスピントロニクス応用
領域 9	金属吸着半導体表面の物理 -この 30 年を振り返り、次の 10 年を展望する
領域 7, 5, 9	イメージング技術で探る分子性固体と有機導体のマイクロナノ物性
領域 10, 9	電池材料の局所境界構造と機能
2014 年春	
領域 9,11	氷の結晶成長 -実験とシミュレーションによる最近の進展-
領域 9, 7	表面界面状態の理解と触媒反応・電子デバイスへの新展開
2013 年秋	
領域 9	二次元物質の成長過程
領域 9	単一原子・単一分子・ナノ粒子での量子物性の新展開
2013 年春	
領域 8,3,4,7,9,10	元素戦略が促進する分野融合と物理
素粒子論、理論核 物理、領域 11,9,8,7,3,4,5,6,12	エクサスケールに向けて歩み出す計算物理学
領域 11,9,7,12	水素結合と分散力に関する第一原理計算の現状と課題
2012 年秋	
領域 4, 6, 8, 9	トポロジカル絶縁体・超伝導体研究の最近の進展と今後の展望
領域 9	プローブ顕微鏡を用いた分光技術
2012 年春	
領域 9, 3, 4, 7, 8, 10	物理学における新・元素戦略

領域 9, 10	エネルギー・環境材料の機能と格子欠陥
領域 9, 5	放射光光電子分光による最先端表面研究
2011 年秋	
領域 9, 12	巨大分子～サブミクロン粒子の自己集積
領域 9, 4, 6, 7	多彩な表面系における電子輸送現象
領域 9, 5	垂直磁気異方性はどこまで理解されてきたか
領域 9, 7, 10	水素アトミクス科学の展望ープロトニクスに向けて
領域 9, 4, 7	グラフェン物性の新展開
領域 9, 4,8,11,12	ナノスケール量子輸送の計算科学的研究の現状・展望と次世代スパコンへの期待
領域 9, 5	Nanoscience by the fusion of light and scanning probe microscopy
2011 年春	
領域 9,5	Nanoscience by the fusion of light and scanning probe microscopy (光と走査プローブ顕微鏡の融合によるナノサイエンス)
領域 4, 8, 9,11, 12	ナノスケール量子輸送の計算科学的研究の現状・展望と次世代スパコンへの期待
2010 年秋	
領域 9,12	準安定結晶相の核形成ーそのメカニズムに潜む普遍性を探るー
2010 年春	
	Force Spectroscopy and Tunneling Spectroscopy by SPM and related techniques
領域 7,9	有機半導体界面における電子状態プローブの新展開
領域 9,7	分子狭窄系の物理
領域 10,9,1	原子分解能をもつ X 線・電子線ホログラフィー
領域 7,4,6,9	グラフェンの生成・評価と物性ー最前線と展望ー
領域 4,3,9,6	量子スピンホール系・トポロジカル絶縁体の物理とその発展
2009 年秋	
領域 5, 7	分光学的手法による有機薄膜研究の最先端
領域 9,11,4,8,12	第一原理電子状態計算のフロンティアと次世代計算機への期待
領域 9,12	コロイド・巨大分子の結晶成長
2009 年春	
領域 9,3,4	超低速ミュオンが拓く表面・界面・薄膜の先端ナノサイエンス
領域 1,9,5	光・原子・表面ー観る、操るーアルカリ原子を中心にー
領域 9,3	原子・分子レベルのスピン検出の最前線
領域 12,9	結晶成長とアミロイド病の物理学

資料2. 最近企画された特別講演・招待講演

※印は 2020 年春の現地開催中止に伴う再推薦

2025 年春			
東脇 正高	大阪公立大	領域 9,4	酸化ガリウム薄膜エピタキシャル成長技術の進展
吉田 昭二	筑波大	領域 9,5,10	時間分解走査プローブ顕微鏡の開発と応用
山田 豊和	千葉大	領域 9,3,7	分子-金属相互作用を利用した低次元ナノ構造の表面合成
岩切 秀一	ワイツマン 科学研究所	領域 7,4,8,9	モアレ物質のメゾスコピック物理と量子ねじれ顕微鏡
Marcel Reutzel	Georg-August Universität Göttingen	領域 5,1,9,10	Excitons in space and time - a femtosecond momentum microscopy study
2024 年秋			
高草木 達	北大触媒研	領域 9,5,10	その場/オペランド表面科学計測による触媒反応プロセスの原子レベル可視化
阿南 静佳	豊田工大	領域 9,7,10,12	金属-有機構造体とソフトマテリアルの複合化
Chun-Liang Lin	NYCU	領域 9,4,10	How STM can help next-generation semiconductor industry?
2024 年春			
望月建爾	オンライン		
望月建爾	浙江大	領域 9,11,12	高圧氷の成長の様子
飯浜賢志	東北大	領域 9,3,5	金属磁性ヘテロ構造における円偏光誘起スピンダイナミクス
Yuki Fukaya	JAEA	領域 9	Surface Structure Analysis with Electrons and Positrons
Subach Sergey	Peter Grünberg Institute	領域 9,5,8	Photoemission Orbital Tomography
M. Imre	Technischen Universität Wien	領域 9	LEED I(V) analysis made easy — The Vienna Package for TensErLEED (ViPerLEED)
Haags Anja	Peter Grünberg Institute	領域 9	Determining structure of molecules adsorbed on surfaces
2023 年秋			
高橋和義	産総研	領域 9,11	計算化学と機械学習の協働による液晶-液晶相転移現象の解明
杉野修	東大物性研	領域 9	BLHO のヒドリド超イオン導電性の発現機構
鈴木一誓	東北大多元研	領域 5,9	放射光角度分解光電子分光を用いた太陽電池・熱電材料 SnS の電子状態研究
佐藤堯洋	SLAC	領域 5,9	XFEL 施設 LCLS における物性研究の現状と今後の展望
2023 年春			
片山哲夫	JASRI	領域 9,2,5	X 線自由電子レーザーを利用したフェムト秒時間分解 X 線計測とその応用
中室貴幸	東大	領域 9,7,10,12	原子分解能での核生成・結晶成長プロセスのその場観察
2022 年秋			
なし			
2022 年春			
数間恵弥子	オンライン		
数間恵弥子	理研	領域 9,5	プラズモン誘起解離反応の実空間研究 — 単一酸素分子の解離機構解明 —
戸田昭彦	広島大	領域 9,7,12	高分子結晶化キネティクスの高速熱測定
南谷英美	分子研	領域 9	ナノスケール磁性およびフォノンの計算物質科学研究
2021 年秋			
新家寛正	北大低温研	領域 9,5	キラルプラズモン近接場を駆使したキラル結晶核形成制御
松井文彦	分子研 UVSOR)	領域 9	光電子運動量顕微鏡の拠点構築と展開
2021 年春			
田川美穂※	オンライン		
田川美穂※	名大未来研	領域 9	DNA ガイドのナノ粒子結晶化: 構造制御と結晶対称性を維持した収縮制御
片山郁文	横国大工	領域 9	テラヘルツ走査トンネル顕微鏡によるナノスケール・超高速電子制御
2020 年秋			
菅原康弘※	オンライン		
菅原康弘※	阪大院工	領域 9	ケルビンプローブ力顕微鏡(KPFM)による金属酸化物表面に吸着した酸素原子・分子の電荷状態に関する研究

寒川義裕	九州大学	領域 9	窒化物半導体成長プロセスの理論解析:不純物混入機構
2020 年春	名古屋大学(現地開催中止)		
田川美穂	名大未来研	領域 9	DNA ガイドのナノ粒子結晶化
菅原康弘	阪大院工	領域 9	ケルビンプローブ力顕微鏡(KPFM)による半導体表面における原子スケール表面電位計測の進展
2019 年秋	岐阜大学		
大門寛	豊田理化学研究所	領域 9	光電子ホログラフィーで切り拓く局所物性科学の新展開
宇治原徹	名大未来研	領域 9	結晶成長プロセス最適化における機械学習の活用
2019 年春	九州大学		
松田巖	東大物性研	領域 9	ディラックフェルミオンを有した新規単原子層の開拓
小西隆士	京大院人・環	領域 9, 12	準安定相を経由する高分子の結晶成長機構
2018 年秋	同志社大学		
杉本敏樹	分子研	領域 9	固体表面の対称性の破れに誘起される水分子凝集系の配向秩序と電荷移動ダイナミクス
福間剛士	金沢大	領域 9	高速周波数変調原子間力顕微鏡を用いたカルサイト結晶溶解過程の原子スケールその場観察
2018 年春	東京理科大学		
今井宏明	慶大理工	領域 9	メソクリスタルにおけるねじれおよび湾曲構造の発現と制御
塩足亮隼	東大新領域	領域 9	超高分解能原子間力顕微鏡による表面吸着分子の構造評価
平岡裕章	東北大学材料科学高等研究所(AIMR)	領域 9	ランダムの中に見る秩序ーパーシステントホモロジーとその応用
2017 年秋	岩手大学		
今田裕	理研	領域 9,5	光と操作トンネル顕微鏡を組み合わせる
楠美智子	名古屋大	領域 9	SiC ステップ構造とグラフェン成長機構の関わり
2017 年春	大阪大学		
Stacey F. Bent	Stanford University	領域 9	Nanoscale Materials for Energy Conversion Applications
Shigeki Kawai	NIMS	領域 9	Revealing Mechanical, Electronic, and Chemical Properties of Molecules by Ultra-high-resolution Atomic Force Microscopy
2016 年秋	金沢大学		
柴田直哉	東大院工	領域 9	分割検出 STEM 法による材料界面解析
佐藤正英	金沢大	領域 9	異なる移動速度の粒子供給源が作る2つの同一周期櫛状パターンについて
2016 年春	東北学院大学		
木村勇氣	北海道大	領域 9	透過電子顕微鏡を用いた溶液からの核生成の“その場”観察
劉燦華	上海交通大	領域 9	カルコゲナイド超薄膜の表面・界面における新奇な超伝導物性
2015 年秋	関西大学		
三浦均	名古屋市立大	領域 9	フェーズフィールド法によるステップ・ダイナミクスの定量的数値計算
倉橋光紀	物材機構	領域 9	スピン・回転状態選別 O ₂ 分子ビームによる酸素吸着・散乱過程の解析
奥田雄一	所属なし	領域 6,9,10	ヘリウム4結晶の最近の展開——平衡形・超固体性——
2015 年春	早稲田大学		
江口豊明	JST-ERATO,慶大理工	領域 9	サイズ選別ナノクラスターの表面集積とその物性評価
川野潤	北大創成	領域 9	炭酸カルシウムクラスターおよび結晶表面におけるイオン吸着過程の解析
2014 年秋	中部大学		
塚本史郎	阿南高専	領域 9	化合物半導体 MBE 成長のその場 STM 観察
2014 年春	東海大学		
坂本一之	千葉大	領域 9	対称性に起因したシリコン表面上の特異なラッシュバ効果
2013 年秋	徳島大学		
田中啓文	阪大理	領域 9	少数分子／ナノカーボン複合体の電気特性と新機能発現
2013 年春	広島大学		

田村隆治	東理大基礎工	領域 9,6	準結晶関連物質における特異な構造相転移
2012 年秋	横浜国立大学		
高柳邦夫	東工大院理工	領域 9,10	ナノ構造と物質移動
奥田雄一	東工大院理工	領域 6,9	ランダム媒質と微小重力下の固体 4He 結晶成長
2012 年春	関西学院大学		
Hoffmann Germar	National Taiwan Univ.	領域 9,3	Spin-polarized scanning tunneling microscopy of organic magnetic molecules
2011 年秋	富山大学		
木村昭夫	広大院理	領域 9,4,5	放射光 ARPES で捉える 3 次元トポロジカル絶縁体の Dirac Fermion
立木昌 筑波大数理物質科学		領域 9,8,3,6,7,11	超伝導研究の歴史・現状・将来
2011 年春	新潟大学		
木村昭夫	広大院理	領域 9,4,5	表面プローブ法でとらえる 3 次元トポロジカル絶縁体表面 の電子構造
2010 年秋	大阪大学		
赤井恵	阪大工精密	領域 7,9	分子ナノシステムの物性探索と素子応用
下條冬樹	熊大院自然	領域 6,9, 10, 11, 12	密度汎関数法に基づく構造不規則系の大規模分子動力学計算
2010 年春	岡山大学		
日比野浩樹	NTT 物性基礎研	領域 7,9	SiC 上に成長したエピタキシャルグラフェンの構造と電子 物性の表面電子顕微鏡による解析
2009 年秋	熊本大学		
下田正彦	物材機構	領域 9,6	準結晶表面の STM 観察とクラスター構造
杉山輝樹	奈良先端大	領域 9,5	光放射圧によるグリシンの結晶化と結晶成長制御
2009 年春	立教大学		
深谷有喜	原研先端基礎研究センター		反射高速陽電子回折に寄る表面相転移の研究

資料3. 大会における企画提案の位置付け

A-7

大会における企画提案の位置付け

一般社団法人 日本物理学会
会誌 Vol.72 (2017) 10月号会告掲載
2019年11月 理事会一部改訂

領域委員会で採択する企画提案の基本的な位置付け(棲み分け)を以下に示しますので、提案時ならびに領域委員会及びプログラム小委員会で各領域より提案される講演の採否を検討する際の参考としてください。

招 待 講 演

すでに成果が挙げられた研究において、その研究の中心的な役割を担った研究者に一般講演よりも長い時間で行っていただく講演。

企 画 講 演

一般講演よりも長い時間で行う次のような講演。

- ・ 今後成果が期待される分野の研究者による新鮮なテーマ
- ・ 国際交流を視野に入れた講演
- ・ 各種受賞記念講演（若手奨励賞受賞記念講演を除く）
- ・ その他、会員にとって魅力的な要素をもった講演

チュートリアル講演

他分野の研究者および大学院生等の初学者に対する解説を主とした講演。

丁寧にわかりやすく講義形式で講演していただくために、招待・企画講演よりも長めの時間設定が可能。

一般シンポジウム講演

ある一つのテーマに沿って、様々な角度からそのテーマを代表する研究者に一般講演とは違った時間枠でしていただく一続きの講演である。

共催シンポジウム講演

第73回年次大会（2018年）より新設。新学術領域その他の研究共同体（以下、コンソーシアム）と物理学会との共同で開催するシンポジウムで、コンソーシアムの活動状況、研究成果について広く紹介し、意見交換するための講演。（当該研究グループには、共催費（標準額は、200,000円≪消費税除く≫）をご負担いただきます。）

A-7

共催企画講演

第 75 回年次大会（2020 年）より新設。新学術領域その他の研究共同体（以下，コンソーシアム）と物理学会との共同で開催する企画講演で，コンソーシアムの活動状況，研究成果について広く紹介し，意見交換するための 45 分以内の講演。（当該研究グループには，共催費（標準額は，100,000 円《消費税除く》）をご負担いただきます。）

これらはいずれも開催する領域の多くの会員が興味を持つとされるものを前提と致します。

資料4. 学生優秀発表賞 領域 9 実施規則

2018 年 6 月 16 日

日本物理学会学生優秀発表賞 領域 9 実施規則

1. 本領域ではポスター発表のみを審査対象とする。
2. 年間実施回数
2 回。年次大会、分科会の両方で行う。
3. 受賞件数
応募件数の 10%を下回らない程度とする。なお、受賞者決定に際しては博士／修士 学部生（高専専攻生含む）のバランスや研究分野のバランスをある程度考慮する。
4. 応募手続き
講演申し込み時（最初の WEB 登録時であり、A4 サイズの講演概要集原稿投稿時ではない）に、講演概要欄の最初に「賞応募希望（学年）」と明記する。
5. 審査員の選出法と数
領域代表、副代表、及び領域運営委員が、領域全体より審査員を選出する。
応募 1 件あたり 3 名の審査員が評価する。発表の共著者は審査員から除く。それ以外の利害関係者の排除については、審査員の判断を尊重する。
6. 採点の方法と授賞候補者の決定
審査項目は発表内容（研究成果）、プレゼンテーション（説明のわかりやすさ、質疑応答、ポスターの完成度）の両方とする。採点方法の詳細については、領域代表、副代表、及び領域運営委員が事前に決定する。領域代表、副代表、及び領域運営委員が審査集計結果をもとに審議して受賞候補者を決定する。できれば学会中に集計と審議を行う。難しい場合、集計担当領域委員を決め、後日メール審議する。
7. 受賞の伝達と発表
受賞候補者には領域代表から伝達する。通知は、可能な限り早く行うこととし、遅くとも次回学会の講演申し込みより十分前に行う。領域 9 の Web に受賞候補者リストを掲載する。
8. 賞状の授与
次の学会のインフォーマルミーティングで受賞式を行う。受賞者が出席できない場合には郵送する。
9. 複数回の授賞は妨げない。

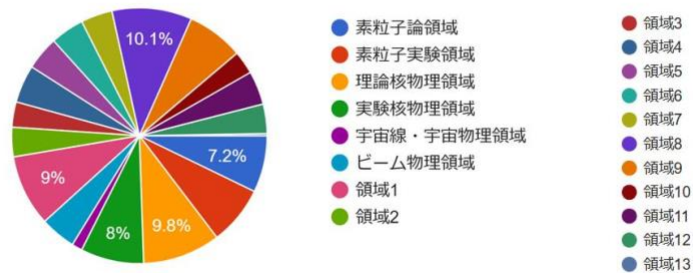
資料 5. 日本物理学会 オンライン大会に関するアンケート

日本物理学会 オンライン大会に関するアンケート

2025 年 1 月 8 日～27 日の期間に領域関係者向けに実施した表題のアンケート結果を報告いたします。

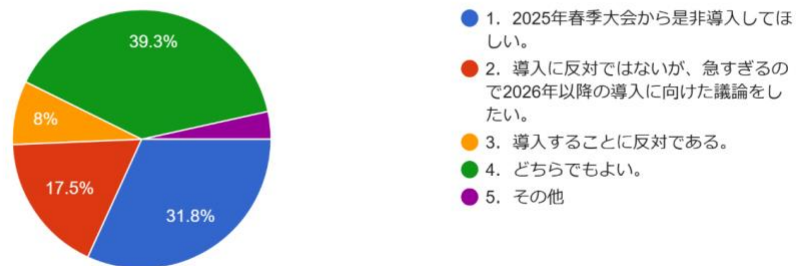
Q1. あなたが該当する領域を選択してください。（※複数ある場合は主に講演、聴講する領域を選択）

376 件の回答



Q2. 同時翻訳字幕機能の導入に関してご意見ください。

377 件の回答



Q4.

2026年春季大会以降のオンライン大会でのポスターセッションの在り方についてご意見ください。

377 件の回答

